

一般質問

町づくり活性化の方法

問 八木勝正議員

行政をはじめ、商工会や各団体、各個人などで町づくり活性化のために、それぞれの分野で成果を出されていますが、今以上の成果を求めるためには、町民の皆さんや全国各地の情報収集、情報の発信、企画立案の強化を図るべく、産業課内に専門的な係を設置し、町づくり活性化のさらなる充実を図る必要があるのではと思いますが、町長のご所見を伺います。

等による情報発信、広域行政による地域活性化対策等の調整事務を担い、産業課をはじめ、各課との連携と情報共有を図りながら取り進めているところであり、今後も引き続き企画財政課の総合的な調整機能により、地域活性化対策や自主的な町づくり支援を進めていきたいと考えています。

再問 八木勝正議員

答弁のように、現状はそういう形で色々な分野で十分行っていると認識していますが、商工観光係でイベント等に関わって行っている、企画財政課で色々な情報収集を行っているといった部分で、二本立てになっっているような



一般質問する八木勝正議員

今後の土壌放射能対策

問 森 浩議員

当町は農業が基幹産業であり、クリーン農業をうたっています。

マスコミ等で農作物の放射能被害が報道されていますが、当町における加工品を含めた農産物、土壌等の放射能実測の有無、また、今後の食の安全、安心のために、放射能関係についての対応を伺います。



一般質問する森 浩議員

答 林 直樹町長

当町の農産物、土壌の放射能実測は実施していません。農産物の安全性の確保については、この度の原発事故に

より農水産物への影響が懸念されていますが、道で大気や海水、土壌といった様々な観点から放射能物質の調査を実施し、その安全性を確認しており、異常は確認されていません。

道の対応状況をもう少し詳しく申しますと、道立衛生研究所や総合振興局の13ヶ所において、大気中の放射線量を毎日測定しているほか、農地土壌については、道内7カ所の農業試験場で4週間ごとに、海水については、太平洋側の3カ所で隔週ごとに測定しています。

調査結果については、報道機関や道のホームページ等で公表されています。

本町農産物、土壌の放射能を一自治体として測定することは極めて困難ですので、引き続き実施される道の調査の結果等を注視しながら、こうした情報の収集に努めるとともに、今後も食の安全、安心に努めていく考えです。

答 林 直樹町長



道路整備事業については大変重要な課題であり、年次計画により整備推進を図ることとしていますが、国、道の公事業予算の削減等により事業採択が厳しさを増し、事業推進も縮小せざるを得ない状況が続いています。可能な限り、国の交付金等を導入しながら、道路整備をしたいと思っております。

また、雪解け時期や大雨、ゲリラ豪雨による路面冠水や路肩、法面の崩壊など、未改良道路に多く発生いたしますので、被害を最小限に食い止めるよう、重点的にパトロールを行い、適切な維持管理をしていきたいと思っております。

止別川河口ごみ対策

問 橋隆文議員

サケ・マスの遡上シーズンには、止別川河口に町内外から多くの釣り人が来ていますが、釣り人等によるごみや車両駐車の問題など、地域住民や観光客にも景観、印象などを含め支障をきたす状況にあります。ご所見を伺います。

答 林 直樹町長

止別川は2級河川であり、河川は北海道の管理下にありますが、ごみや景観、路上駐車による通行障害など、町として放置できない状況にもあります。

路上駐車対策としては、隣接する町有地に臨時駐車場を設置するとともに、斜里警察へ協力を依頼し、定期的な巡回実施と路上駐車車両への警告書の貼付を実施していただいています。

更に、本年より9月から11月の期間、駐車禁止看板を設置しており、一定の効果があつたと認識しています。

ごみについては、シーズン終了時、担当職員により河口付近と臨時駐車場のごみ拾いと清掃を実施しています。

また、ごみを集積し、町にご連絡を下さる良心的な方もいて、それらのごみについても町で収集しています。

ごみの問題は、釣り人のマナーに期待するところが大きいという状況であり、今後も啓発を続けていきたいと思っております。

再問 橋隆文議員

ごみ対策についてですが、止別川河口のオホソク海岸道路は、近年、世界遺産知床への観光道路の動線となり、オホソクの村、サケ・マスの捕獲場など、自然環境にも重視する必要があると思えます。町長はどのように考えていますか。

気がします。

活性化につながるような、すばらしいアイデアをお持ちの町民の方々がたくさんいると思えます。

その辺を1つの課にまとめ一本立てにして、アドバイスや情報の発信など、町民の皆さんがわかりやすいようにしてはどうかと思いますが、町長の考えを伺います。

答 林 直樹町長

商工観光係は、係としての実働部隊で活躍していますが、町づくりの活性化というのはいろんな部分がありますので、その窓口としては企画財政係が所管しています。

今後も、新しい係を作らなくても十分機能できるのではないかと思います。

町の活性化のために、いろんなアイデア等お持ちの町民の方はたくさんいらっしゃるかと思いますので、しっかりと周知していきたいと思いたす。

答 林 直樹町長

ごみゼロ推進委員会が主体となり、ごみゼロクリーン作戦として、町民の皆さん方に声をかけて、春と秋の年2回じゃがいも街道のごみ拾いをしていますが、オホソク海岸道路についてもすべきかどうか、啓蒙普及活動といったことも含めて、今後検討したいと思えます。

再々問 橋隆文議員

ごみ問題は環境等に関する大きな問題です。命令などの措置も必要かと思えますが、環境・ごみ等に對する手だてがあればお聞きします。

答 林 直樹町長

条例の制定も今の時点では難しいかと思えます。ごみゼロ推進委員会等で啓発活動を行っていますし、原

生活道路の整備

問 槻間善 議員

生花園については、観光シーズン前に観光協会の皆さん方がごみ拾いをしています。そのようなことを通じて、町民の皆さん方にごみを捨てないような認識をしていただくことしかないので、今のところ思っています。

第8期小清水町農業振興計画の中に、農村環境の整備とありますが、住宅から基幹道路までの間で、雪解け時期や大雨の後など、生活道路の状況が悪く苦労されている状況にあります。

実態を調べ、町として取り組む必要があると思えますが、ご所見を伺います。



一般質問する槻間善 議員